チャペルニュース
Chapel News No.152

2025年4月1日
入学・進級号

新しい東北学院大学へようこそ

学長
大西 晴樹

入学おめでとうございます。皆さんは、土樋・五橋の「都心型ワンキャンパス」で四年間の学生生活を過ごし、なかには、一昨年開設された四学部（地域総合学部・情報学部・人間科学部・国際学部）の第三期生となる新入生もいます。

東北学院大学は、新しい環境のもとで、新しい学問を修めることができる大学であると同時に、建学以来一三九年間、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神として堅持してきました。なぜ、キリスト教による人格教育を大切にして来たかというと、この建学の精神は、人間と人間の関係、人間と自然の関係、科学技術を考えるうえで、大切な示唆を与えているからです。二十一世紀もSociety5.0に突入し、瞬時の大量処理、グローバルな展開という時代を迎えており、学問においても最先端の科学技術を学ばなければなりません。しかしながら、人間がそれらの科学技術を行使し、人間や世界や自然を支配しようとしても、残念ながら、不和と憎しみを生み、貧富の格差を増大させ、自然環境を破壊し、疫病や戦争をもたらしているのが現実ではないでしょうか。極言すれば、科学技術を行使して人間が神に近づこうとしても、結果として、人類や地球の滅亡を招くのではないかと懸念してしまいます。

東北学院は「智徳併行」の大学です。それぞれ専門分野を修得すると同時に、建学の精神であるキリスト教の学びを通じて、神と自分とは何者か、罪とは何か、愛とは何か、救いや希望とは何か、自然とは何か、平和とは何かについて深い洞察力を養ってほしいと願っています。私は、深い洞察力をもち、愛を実践する人格によってのみ本当の未来が拓かれるのだろうと確信しています。

築九十三年を数えた土樋の由緒あるラーハウザー記念東北学院礼拝堂に出席するもよし、新しい押川記念ホールに出席するもよし、皆さんが聖書を読み、大学礼拝を通して「心の基礎力」を身に付けた学院生として成長されんことを切にお祈りしています。

“大学礼拝”と東北学院大学のキリスト教教育

大学宗教部長
原田 浩司

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東北学院大学でのキャンパスライフがいよいよ始まります。そこで皆さんには東北学院大学がキリスト教の信仰と精神を大切にしてきた大学であるということを改めて理解していただきたいと思います。

皆さんが入学した東北学院大学は一八八六年に押川方義先生と米国人のプロテスタント宣教師ウィリアム・ホーイ先生の二人が創立した「仙台神学校」がその起源となります。その翌年に来日したデイビッド・シュネーダー宣教師がこれに加わり、その後「東北学院」に改称して今日に至ります。つまり、東北学院は創設以来、約百四十年もの間、キリスト教の信仰に基づく人格教育・教養教育を仙台で実践してきました。東北学院大学の学生である皆さんは、この東北学院の新しい歴史の継承者なのです。

東北学院の教育は「ＬＩＦＥ ＬＩＧＨＴ ＬＯＶＥ」のモットーに則して行われており、その教育の根幹にあるのが「大学礼拝」です。本学では教室での座学として「キリスト教関連科目」があります。しかし、「ＬＩＦＥ ＬＩＧＨＴ ＬＯＶＥ」に示される本学の教育の特徴は「大学礼拝」を通し、個々の学生の人格に益する幅広い価値観を練磨する人格教育にあります。

東北学院大学は総合大学ですから、学生の皆さんは四年間を通し、幅の広い、高度で多様な教養、知識、技術を学ぶことができます。学生一人ひとりがそうした教養や知識を得ることは大切な課題ですが、東北学院の教育は〈こころ〉や〈霊性〉といった、人間の内なる「人格の成長」に照明を当てます。聖書には「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます」（一コリ、八・一）と記されています。東北学院の教育は「人を造り上げる」のに不可欠なものとしての「いのち 光 愛」に則った教育であり、その中心に置かれるのが大学礼拝です。

土樋でも五橋でも講義期間中は毎日行われる大学礼拝をとおして、新入生の皆さんも在学生も、荘厳なパイプオルガンの生演奏に聴き、讃美歌を歌い、沢山の聖書の言葉から、私たち人間やこの世界を超越する神の「いのち 光 愛」に触れて、そこから現実の世界の課題について、多くの気付きや発見をして頂きたいと思います。「人を造り上げる」ものこそ、よりよい社会、よりよい世界を造り上げるのに貢献することができます。

その他、宗教部の教員が毎週「聖書研究会」を開催していますので、聖書やキリスト教に関心のある皆さんの参加を歓迎します。夏休み初頭には特別企画のサマー・カレッジも開催しています。新入生、在学生の皆さんの参加を二〇二五年度も心からお待ちしています。

キャンパスメッセージ

Campus messages

各担当の先生たちからのご挨拶

Tsuchitoi

土樋担当
大学宗教主任
川島 堅二

「キャンパスミニストリー」という言葉を初めて聞くという方も多いと思います。「ミニストリー」という言葉には多様な意味がありますが、キリスト教用語としては、牧師などの聖職者、そして聖職者の仕事やつとめを表す言葉です。したがって「キャンパスミニストリー」とは東北学院大学のようなキリスト教を基盤に建てられた大学におけるキリスト教活動全般を表す言葉です。

具体的にはキャンパス内で毎日行われる礼拝があります。礼拝では総合人文学科に所属する宗教主任の先生方や、地域の牧師さんたちにより聖書に基づいたメッセージが語られます。また美しいパイプオルガンの伴奏により讃美歌を歌うことでキリスト教の内容に深く触れる時間となっています。強制ではありませんが「毎日の礼拝に参加することにより、生活が整えられ、有意義な学生生活を送ることができた」という声を毎年卒業生から聞いています。ぜひ積極的に参加してみてください。

TGベーシック科目である「聖書を学ぶ」や「キリスト教の歴史と思想」などの授業もキャンパスミニストリーと連動しています。この授業と礼拝は車の両輪のようなもので、東北学院大学の建学の精神に触れる貴重な場になっています。

Itsutsubashi

五橋担当
大学宗教主任
渡邉 蘭子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

五橋では「押川記念ホール」で礼拝が行われます。二年前にできたばかりの新しいホールです。広くて天井も高いので、礼拝開始とともに正面の大きなパイプオルガンが奏でられると、荘厳な音色が響き渡り、体全体を包み込んでくれます。

「礼拝」と聞くと、堅苦しいキリスト教の儀式なのでは?と思う人もいるかもしれません。しかし、礼拝はクリスチャンでなくても大切な意味を持っています。

まず、礼拝は自分の心を見つめることができるいい機会です。日々の喧騒から一旦離れ、静かに自分の心と向き合う時間を持つことができます。そうして心を整えることができ、それが心の安定にもつながります。

さらに、聖書から豊かな知恵を得られることも礼拝の魅力です。礼拝では、聖書の言葉を牧師や先生方が解説してくれます。聖書には大昔から伝わる人生の指針や知恵がたくさん詰まっています。それらは、今日の私たちが直面する人生の課題に対しても深い洞察を与えてくれます。

初めて礼拝に参加した学生の多くが「礼拝、意外と良かった。これからも行こうかな」と言います。ぜひみなさんも気軽に礼拝に参加してみてください!

賛美歌を歌おう！

東北学院大学は、皆さんに礼拝への出席を強くお勧めします。初めて礼拝に出席する方は戸惑うことも多いかもしれません。それは、礼拝が普段の生活に馴染みのない非日常的な空間だからでしょう。パイプオルガンを聴き、賛美歌を歌い、皆で聖書の箇所を目で追いながら読むということは、普段の生活ではしないことと思います。

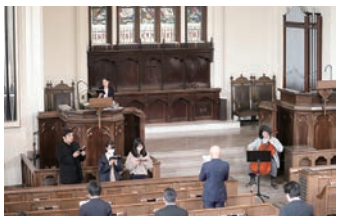
なぜ礼拝では音楽の要素が重要なのでしょうか。それは、キリスト教が「聴く」ことを大切にしているからです。聖書の「十戒」には、「あなたは自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水にあるものの、いかなる形も造ってはならない。」（出エジプト記20章4節）とあり、偶像礼拝を禁じています。そのため、神を認識する方法として「見る」ことではなく、「聴く」ことが重視されるのです。もし聖書の話を聴くだけなら、音楽は必要なく、聖書も「それぞれ読んでおいてください」で済むかもしれません。しかし、礼拝では全員で聖書を開き、司会者の朗読を、文字を追いながら聴くことが求められます。

賛美歌も、本来なら上手な人が代表で歌えば良いと思われがちですが、礼拝では全員が声を合わせて歌います。皆さんの中には歌うことが好きな人もいれば、嫌いな人もいるかもしれません。一人で歌うのであれば、それは自分に関係ないと思ってしまうかもしれません。しかし皆で歌うことで、歌は別の意味を持つようになります。それは、他者の存在を意識することになるからです。みんなで歌う時、まず音程やテンポを考え、さらに一人だけ先に歌い始めたり目立ったりしないようにと気をつけます。また、隣の友達がいつもと違う雰囲気を感じると、「今日は体調が悪いのかな？」と考えることもあります。賛美歌を歌うということは、単に声を出す行為以上の意味があります。学生や教職員がお互いに「今日も学校に来ているね、元気？」と気遣う行為なのです。つまり、他者の存在を感じる時間であり、神がこの学校を私たちに与えてくださり、守ってくださっていることに感謝しながら、「私たちはここにいます！」と神と対話する時間でもあります。ですから、歌が得意か不得意かは関係なく、全員で歌うことに意味があるのです。皆で声を合わせ、神が創造した音楽の美しさを感じながら祈り歌うことで、神の存在が身近に感じられるでしょう。

卒業生に聞くと、多くの卒業生が礼拝の時間が印象に残っていると話します。普通に考えれば、何を勉強したか、ゼミでどのような研究をしたかなどの方が、印象に残っているはずです。しかし、礼拝の時間は非日常的な空間で、耳を通して「聴く」ことに集中し、他者の存在を再認識する貴重な時間であると感じたため、卒業後も印象に残っているのだと思います。

礼拝では、伝統的なオルガンを使った礼拝の他にも、聖歌隊やTGCFによる音楽礼拝も企画しています。皆さんの積極的な出席をお待ちしています。

（大学宗教主任兼宗教音楽研究所所長　椎名 雄一郎）



ティー ジー シー エフ

「TGCFでつながろう！」

東北学院クリスチャンフェローシップは、
一人一人の新しい出会いと発見を応援しています。

TGCF（ティージーシーエフ）（Tohoku Gakuin Christian Fellowship）は、オール東北学院の交流活動です。どなたでも、お気軽にご参加いただけます。

大学では木曜日の午後を中心に活動が行われ、English Café(国際交流・異文化交流)、ミュージックサービス(学生によるバンド演奏と賛美・メッセージ・交流会)、お昼休みの交流会、学生企画の交流イベント(他学部・他学年交流)、特別イベントなどがあります。

English Café は、様々な国の宣教師が講師として参加するため、留学のような雰囲気を体験できる国際交流・異文化交流です。英語のゲームやグループでの英会話が中心ですが、新しい出会いや友達作りができるカフェタイムなどもあります。

ミュージックサービスは、学生によるバンド演奏(ポップな賛美)と聖書のメッセージです。交流会では、授業の質問や大学生活全般、おすすめの飲食店など、経験豊富な優しい先輩方に気軽に聞くことができます♪

学生企画の交流会は、のんびり、ゆるっと、出会いを楽しむイベントです。新企画も随時募集中(大学礼拝の賛美/奏楽に興味がある方も募集中)です！特別イベントは、John Lucas氏のゴスペルワークショップ、長沢崇史師との賛美集会、クリスマスイベント等が行われました。

宗教センターHP

TGCF
インスタグラム

お昼休みの交流会は、これまでに韓国、台湾、香港、マカオ、フィリピン、シンガポール、南アフリカ、ザンビア、イタリア、ドイツ、マン島、スコットランド、イングランド、カナダ、アメリカ各地の宣教師や学生の方々をゲストとしてお迎えしています。

活動詳細は、土樋キャンパス礼拝堂、五橋キャンパス押川記念館3階、各キャンパスの掲示板、宗教センターホームページ等でご案内しています。みなさんとお会いできる日を楽しみにしています。

（東北学院宗教センターチャプレン　佐藤 由子）

私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。（ヨハネによる福音書 15:12）

大学礼拝について
基本的なことを知っておこう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には積極的に出席しましょう。本学での学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝よりも短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的な進行内容をお伝えします。

1 【前　奏】 Prelude

一限が午前十時十五分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

2 【讃美歌】 Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

3 【聖　書】 Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

4 【説　教】 Preaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教」は、「聖書を説いて教える」ことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。

5 【祈　祷】 Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

6 【頌　栄】 Congregational Response

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

7 【後　奏】 Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣」を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。

大学礼拝について（詳細）
https://www.tohoku-gakuin.jp/ch/tgu/chapel/

宗教部HP
https://www.tohoku-gakuin.jp/ch/tgu/

原田 浩司先生（宗教部長）

専門はスコットランドの宗教改革と神学です。講義以外でも、大学礼拝をとおして聖書の言葉の豊かさやキリスト教の教えの魅力に、多くの学生の皆さんに触れていただきたいと思います。

大門 耕平先生（大学宗教主任）

学校教育について研究と実践を行っています。聖書の言葉を知り、考える時間を共有できることを楽しみにしています。

岡田 勇督先生（大学宗教主任）

専門は近現代の哲学・神学です。キリスト教は「硬い」ものでも「難しい」ものでもなく、「おもしろい」ものです。皆さんとお話できるのを楽しみにしています。

川島 堅二先生（大学宗教主任）

専門は近代キリスト教思想の研究。カルトなど社会問題化する宗教の研究や調査もしています。

椎名 雄一郎先生（大学宗教主任）

キリスト教音楽、とりわけJ．Sバッハのオルガン作品研究をしています。礼拝ではみ言葉、そして神様の創造された音楽を共に聴いていきましょう。

東北学院大学宗教部教員の紹介

田島 卓先生（大学宗教主任）

専門は旧約聖書です。日々の礼拝で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

藤野 雄大先生（大学宗教主任）

専門は、アメリカ教会史。東北学院で豊かな学びがなされますよう、お祈りしております。

渡辺 有美先生（大学宗教主任）

初期イタリア・ルネサンス美術が専門です。全ての良きものをくださる神様をともに見上げて行きましょう。

渡邉 蘭子先生（大学宗教主任）

専門は古代・中世のキリスト教思想で、特にアウグスティヌスの思想を研究しています。共に聖書の言葉をじっくりと味わっていければと思います。

吉田 新先生（総合人文学科長）

専門は新約聖書です。東北学院のキャンパスで多くの思い出を作ってください。

今井 奈緒子先生（大学オルガニスト）

教養教育センター教員として、キリスト教音楽や音楽史、オルガン演奏を教えています。音楽礼拝では、優れた讃美歌やオルガン曲を紹介します。

第20回「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝会場のオルガンを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

◆受講資格
・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
・レッスン、練習に励む意欲があること

◆対象
本学に在籍する学生
（所属学部、学部生・大学院生を問わず）

◆内容
オルガンの奏法と作品を学ぶ
（個人またはグループレッスン形式）
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆場所
●土樋キャンパス
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
●五橋キャンパス押川記念ホール

◆受講料　年間一五、〇〇〇円

◆期間
五月～十二月（レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備）

◆募集人数
各キャンパスにつき若干名

◆講師
椎名雄一郎（文学部総合人文学科教授）
小野なおみ（礼拝オルガニスト）

◆ガイダンス開催日
受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月八日（木）十六時に、五橋キャンパス宗教音楽研究所事務室（押川記念館3階）へおいでください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスン日の相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください（022－354－8312）。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただく場合があります。

宗教部 聖歌隊へのお誘い

宗教部聖歌隊は、建学の精神に基づき、大学礼拝やクリスマスで賛美を捧げてきました。特に一昨年度からは、土樋キャンパスとともに新しい五橋キャンパスの行事やクリスマスでも歌声を響かせています。合唱経験のない人には新しい活動を始めるチャンス、合唱経験者には高校までの合唱活動をさらに先に進めるチャンスとなるように、新年度も様々な活動をしていく予定です。

世界から戦争の脅威は去らず、私たちの身近にも悲しいこと、理不尽なことの絶えない時代ですが、ともに歌声をあげていきましょう。聖歌隊は四月十日から毎週木曜日、十五時から土樋キャンパス礼拝堂で練習しています。いつでもいらしてください。

聖歌隊活動の最新情報はX(旧Twitter)に反映させますので、ぜひご覧ください。@choir_gakuin

2025年度 礼拝オルガニストのみなさん

以下の方々が日々の礼拝奏楽をご担当されます。

今井奈緒子 先生
牧田子 先生
石和枝 先生
今高理真 先生
大泉なおみ 先生
小野淑子 先生
菅原恵莉子 先生
山辺真理 先生

礼拝の奏楽をもって、皆様を日々の学生生活へ送り出してくれます。ぜひ、オルガンの音色を聴きに、礼拝会場へお越しください。

編集後記

二〇二五年度になり、土樋・五橋両キャンパス体制も三年目になりました。かつての泉・多賀城キャンパスで学んだ在学生の数も少なくなりつつあります。しかし、時代の変化の中にあっても、変わらず守られてきたものがあります。それが建学の精神です。東北学院は、一八八六年創設の仙台神学校以来、一三九年目の歩みをしていますが、一貫して、キリスト教精神に基づく人格教育と、礼拝を重んじてきました。現在でも、授業期間中は、月曜から金曜日まで一限と二限の間に毎日欠かさずに大学礼拝がささげられています。聖書の言葉を聞き、オルガンの演奏に耳を傾け、そして讃美歌を歌い、祈りを捧げる。「TG生ならでは」の時間を大切にしていただきたいと思います。

二〇二五年四月一日
編集　東北学院大学宗教部
〒九八〇－八五一一
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号